



平成28年2月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成28年1月14日

上場会社名 松竹 株式会社 上場取引所 東 札 福
 コード番号 9601 URL http://www.shochiku.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 迫本 淳一
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 関根 康 TEL 03-5550-1699
 四半期報告書提出予定日 平成28年1月14日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年2月期第3四半期の連結業績（平成27年3月1日～平成27年11月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年2月期第3四半期	70,063	2.8	5,816	△4.3	5,136	0.0	3,268	△2.4
27年2月期第3四半期	68,149	1.8	6,074	△11.5	5,134	△3.1	3,348	3.3

(注) 包括利益 28年2月期第3四半期 5,693百万円 (1.0%) 27年2月期第3四半期 5,637百万円 (2.2%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年2月期第3四半期	23.78	—
27年2月期第3四半期	24.36	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
28年2月期第3四半期	202,507	82,400	40.7	599.10
27年2月期	194,652	76,470	39.3	555.93

(参考) 自己資本 28年2月期第3四半期 82,343百万円 27年2月期 76,418百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年2月期	—	0.0	—	4.00	4.00
28年2月期	—	0.0	—		
28年2月期(予想)				3.00	3.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 平成28年2月期の連結業績予想（平成27年3月1日～平成28年2月29日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	93,120	3.7	5,410	△28.0	4,470	△31.3	2,490	△40.4	18.11

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 — 社（社名） 、除外 — 社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	28年2月期3Q	139,378,578株	27年2月期	139,378,578株
② 期末自己株式数	28年2月期3Q	1,932,972株	27年2月期	1,919,487株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	28年2月期3Q	137,451,390株	27年2月期3Q	137,471,636株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外ではありますが、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.3「1.当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（金額単位の変更について）

当社の四半期連結財務諸表に掲記されている科目その他の事項の金額については、従来、千円単位で記載しておりましたが、第1四半期連結会計期間及び第1四半期連結累計期間より百万円単位をもって記載することに変更いたしました。なお、比較を容易にするため、前連結会計年度及び前第3四半期連結累計期間につきましても百万円単位で組替え表示しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する説明	2
(2) 連結財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、海外景気の下振れが懸念されるなか、個人消費や設備投資の持ち直し、雇用情勢の改善などから、景気は緩やかな回復基調で推移いたしました。

このような状況下、当企業グループはより一層の経営の効率化を図り、積極的な営業活動を展開いたしました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間は、売上高70,063百万円(前年同期比2.8%増)、営業利益5,816百万円(同4.3%減)、経常利益5,136百万円(同0.0%増)となり、特別利益542百万円、特別損失700百万円を計上し、四半期純利益は3,268百万円(同2.4%減)となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

(映像関連事業)

配給は、3月、4月に連続公開の「ソロモンの偽証」(前後篇二部作)、9月公開の「天空の蜂」は、作品として高い評価を得ましたが厳しい結果となりました。5月公開の「駆込み女と駆出し男」、11月公開の「グラスホッパー」を中心に高稼働しました。また、6月公開のアニメ「ラブライブ! The School Idol Movie」は、熱心なファンの支持を得て大ヒットとなりました。その他、ODS作品として「機動戦士ガンダム THE ORIGIN II 哀しみのアルテイシア」等を公開し、収益に貢献しました。

興行は、(株)松竹マルチプレックスシアターズ運営の各劇場が堅調に推移しています。夏には、「ジュラシック・ワールド」をはじめ、ヒット作品が多かったことと、自社配給作品を効果的に展開したこと等も奏功し、多くの劇場で8月の興行記録を更新しました。また、新宿ピカデリーの近隣に競合館が開業しましたが、独自の宣伝展開や番組編成を強化した結果、引き続き高い稼働率となり、全国トップクラスの動員を維持しました。

テレビ制作、映像ソフト、テレビ放映権販売、海外向け作品販売等は堅調に推移しました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は38,004百万円(前年同期比5.2%増)、セグメント利益は2,321百万円(同6.5%増)となりました。

(演劇事業)

新開場3年目となりました歌舞伎座は、3月に「菅原伝授手習鑑」の通し上演、6月に「新薄雪物語」の通し上演を行うなど、若手花形俳優も積極的に起用しながらの意欲的な公演に取り組みました。また、「七月大歌舞伎」「十一月吉例顔見世大歌舞伎」が高稼働しました。

新橋演舞場は、国民的人気漫画「ONE PIECE」を原作にした、スーパー歌舞伎II「ワンピース」を10月から二ヶ月連続で上演し、大盛況となりました。その他、藤山直美主演のスーパー喜劇「かぐや姫」、10年目の節目を迎えた「滝沢歌舞伎」、歌舞伎NEXTと銘打ちました意欲作「阿豆流為」など毎月充実した舞台を繰り広げました。

大阪松竹座は、4月のスーパー喜劇「かぐや姫」、10月の「阿豆流為」は、新橋演舞場での公演に引き続き活況を呈し、好成績を収めました。関西ジャニーズJr.公演、OSK日本歌劇団「レビュー春のおどり」、片岡愛之助主演の「六月花形歌舞伎」が収益に貢献しました。

南座は、「三月花形歌舞伎」では、次世代を担う若手歌舞伎俳優の活躍で舞台を盛り上げました。また、9月にベストセラー絵本として知られる「あらしのよるに」を歌舞伎化、親子連れでの観劇も目立ち、大好評の公演となりました。

その他の松竹公演では、「平成中村座 陽春大歌舞伎」が大賑わいの公演となり、日生劇場「嵐が丘」、サンシャイン劇場「広島に原爆を落とす日」は、高い評価を得ました。シネマ歌舞伎、METライブビューイング、その他演劇関連事業は、堅調に推移しました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は19,838百万円(前年同期比1.4%減)、セグメント利益は2,030百万円(同20.3%減)となりました。

(不動産事業)

不動産賃貸は、歌舞伎座タワー、築地松竹ビル(銀座松竹スクエア)、新宿松竹会館、有楽町センタービル(マリオン)、松竹倶楽部ビル、大船の松竹ショッピングセンター、新木場倉庫等が満室稼働し、安定収入に貢献しました。各ビルともに効率的運営、管理費等の経費削減に努め、計画通りの利益を確保しました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は7,599百万円(前年同期比0.9%増)、セグメント利益は2,962百万円(同9.4%増)となりました。

(その他)

プログラム・キャラクター商品は、「ラブライブ! The School Idol Movie」「ARIA The AVVENIRE」「機動戦士ガンダム THE ORIGIN I 青い瞳のキャスバル」等、コアファンを有するアニメ作品が好調で、同作品の商品が牽引し、通販サイトFroovieでの商品受注も堅調に推移しました。劇場商品以外の新たな展開として、歌舞伎とふなっしーのキャラクターコラボ商品を開発し、好調な売上となりました。

イベント事業は、東京タワーでの「お化け屋敷」や関西での「巨大昆虫ワールド」等を実施し好評を博しました。また、3月に成田空港出発ロビーにオープンした歌舞伎のギャラリーとショップ機能を併せ持つ「Kabuki Gate」は、多くの国内外のお客様で賑わいを見せました。その他では、東京駅の「松竹歌舞伎屋本舗」、大井競馬場の競馬観戦型レストラン「ダイヤモンドターン」等が好調に推移しました。

貸衣裳事業、清掃事業及び舞台大道具製作事業は堅調な成績をあげています。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は4,620百万円（前年同期比5.2%増）、セグメント利益は446百万円（同20.5%減）となりました。

(2) 連結財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ7,854百万円増加し、202,507百万円となりました。これは主に現金及び預金、及び投資有価証券の増加等によるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べ1,924百万円増加し、120,106百万円となりました。これは主に長期借入金の増加等によるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ5,930百万円増加し、82,400百万円となりました。これは主に利益剰余金及びその他有価証券評価差額金の増加等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成28年2月期の連結業績予想につきましては、当第3四半期連結累計期間の業績及び今後の見通しを検討した結果、現時点においては平成27年4月14日付「平成27年2月期 決算短信」にて発表いたしました連結業績予想からの変更はありません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

（退職給付に関する会計基準等の適用）

「退職給付に関する会計基準」（企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。）及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第25号 平成27年3月26日。以下「退職給付適用指針」という。）を退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準に変更するとともに、割引率の決定方法を従業員の平均残存勤務期間に近似した年数を基礎に決定する方法から、退職給付の支払見込期間及び支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法へ変更いたしました。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当第3四半期連結累計期間の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の期首の退職給付に係る負債が803百万円減少し、退職給付に係る資産が442百万円、利益剰余金が801百万円増加しております。また、当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	9,746	13,177
現金及び預金（責任財産限定対象）	8,084	9,289
信託預金（責任財産限定対象）	3,117	3,315
受取手形及び売掛金	7,563	8,310
商品及び製品	1,396	1,523
仕掛品	2,753	2,980
原材料及び貯蔵品	84	89
その他	3,673	4,928
貸倒引当金	△31	△16
流動資産合計	36,388	43,598
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	19,034	18,383
建物及び構築物（責任財産限定対象）（純額）	20,942	20,283
信託建物（責任財産限定対象）（純額）	12,007	11,526
設備（純額）	11,121	10,480
土地	22,131	22,131
信託土地（責任財産限定対象）	18,751	18,751
その他（純額）	6,005	5,688
有形固定資産合計	109,995	107,245
無形固定資産		
その他	2,892	2,868
無形固定資産合計	2,892	2,868
投資その他の資産		
投資有価証券	23,225	26,489
長期前払費用（責任財産限定対象）	13,798	13,577
退職給付に係る資産	—	673
その他	8,614	8,260
貸倒引当金	△262	△206
投資その他の資産合計	45,375	48,794
固定資産合計	158,263	158,908
資産合計	194,652	202,507

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年11月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,038	7,013
短期借入金	5,677	4,465
1年内償還予定の社債	1,100	—
1年内返済予定の長期借入金	17,440	14,770
1年内返済予定の長期借入金（責任財産限定）	1,631	1,631
未払法人税等	1,462	820
賞与引当金	437	164
その他	8,723	10,640
流動負債合計	42,511	39,505
固定負債		
社債	—	1,100
社債（責任財産限定）	500	500
長期借入金	14,505	19,441
長期借入金（責任財産限定）	40,878	39,422
役員退職慰労引当金	732	754
退職給付に係る負債	1,751	1,093
資産除去債務	1,291	1,282
その他	16,011	17,006
固定負債合計	75,670	80,601
負債合計	118,181	120,106
純資産の部		
株主資本		
資本金	33,018	33,018
資本剰余金	30,135	30,135
利益剰余金	7,595	11,113
自己株式	△1,324	△1,338
株主資本合計	69,425	72,928
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	6,929	9,350
退職給付に係る調整累計額	63	64
その他の包括利益累計額合計	6,992	9,414
少数株主持分	52	57
純資産合計	76,470	82,400
負債純資産合計	194,652	202,507

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年3月1日 至平成26年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年3月1日 至平成27年11月30日)
売上高	68,149	70,063
売上原価	38,168	40,142
売上総利益	29,981	29,921
販売費及び一般管理費	23,906	24,105
営業利益	6,074	5,816
営業外収益		
受取利息	30	14
受取配当金	148	184
還付消費税等	164	—
負ののれん償却額	2	—
持分法による投資利益	—	5
貸倒引当金戻入額	—	73
その他	63	70
営業外収益合計	410	348
営業外費用		
支払利息	968	839
借入手数料	314	139
持分法による投資損失	0	—
その他	66	48
営業外費用合計	1,350	1,027
経常利益	5,134	5,136
特別利益		
劇場閉鎖損失引当金戻入額	366	—
受取和解金	103	—
固定資産受贈益	—	542
特別利益合計	470	542
特別損失		
固定資産除却損	66	77
固定資産圧縮損	—	542
和解金	—	80
特別損失合計	66	700
税金等調整前四半期純利益	5,538	4,979
法人税、住民税及び事業税	1,955	1,439
法人税等調整額	223	266
法人税等合計	2,179	1,705
少数株主損益調整前四半期純利益	3,358	3,273
少数株主利益	10	5
四半期純利益	3,348	3,268

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成26年3月1日 至 平成26年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成27年3月1日 至 平成27年11月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	3,358	3,273
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,278	2,419
退職給付に係る調整額	—	0
持分法適用会社に対する持分相当額	0	△0
その他の包括利益合計	2,278	2,420
四半期包括利益	5,637	5,693
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	5,626	5,688
少数株主に係る四半期包括利益	10	5

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更に関する注記)

第2四半期連結会計期間において、当社の連結子会社であった松竹関西サービス株式会社を、株式会社松竹サービスネットワークとの吸収合併に伴い連結の範囲から除外しております。

また、第2四半期連結会計期間より、新たに株式を取得したAetas株式会社を持分法適用会社を含めております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

Ⅰ 前第3四半期連結累計期間(自平成26年3月1日至平成26年11月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	映像関連事業	演劇事業	不動産事業	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
売上高							
外部顧客への売上高	36,110	20,112	7,533	4,393	68,149	—	68,149
セグメント間の内部売上高又は振替高	124	77	1,275	3,518	4,996	△4,996	—
計	36,235	20,190	8,808	7,912	73,146	△4,996	68,149
セグメント利益	2,180	2,546	2,706	561	7,996	△1,921	6,074

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、舞台衣裳の製作・販売・賃貸、プログラムの製作・販売、キャラクター商品の企画・販売、演劇舞台の大道具・小道具・音響の製作・販売、音楽著作権の利用開発・許諾、不動産の管理・清掃等であります。
2. セグメント利益の調整額△1,921百万円には、セグメント間取引消去39百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△1,960百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の総務部門等管理部門に係る経費であります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自平成27年3月1日至平成27年11月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	映像関連事業	演劇事業	不動産事業	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
売上高							
外部顧客への売上高	38,004	19,838	7,599	4,620	70,063	—	70,063
セグメント間の内部売上高又は振替高	122	110	1,250	3,575	5,059	△5,059	—
計	38,127	19,949	8,849	8,196	75,123	△5,059	70,063
セグメント利益	2,321	2,030	2,962	446	7,760	△1,944	5,816

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、舞台衣裳の製作・販売・賃貸、プログラムの製作・販売、キャラクター商品の企画・販売、演劇舞台の大道具・小道具・音響の製作・販売、音楽著作権の利用開発・許諾、不動産の管理・清掃等であります。
2. セグメント利益の調整額△1,944百万円には、セグメント間取引消去31百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△1,976百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の総務部門等管理部門に係る経費であります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。